

## 「心が明るくいいきと

## どんなことも楽しみととらえて

## 美しい心で生きられるように」

学校法人 高杉学園 学園長 高杉美稚子

春爛漫、4月がやってまいりました。私の一番大好きな季節です。桜が咲き乱れ、何だか心がワクワクするような、心改まるそんな4月です。

桜は、謙虚で日頃はどこに咲いているか、目立ちませんが、一年間しっかり、栄養を蓄え、どっしりと根を張り、力強く自分の力を蓄えていて、いつでもその出番を待っている、いつでも準備OK、スタンバイの姿勢と長年咲き続けてきた自信と生き抜く覚悟を感じます。そして、出すぎず、いつも、つつましかで、そして同時に、ここぞという時に、あでやかに咲きほこり、日本中を美しく、華やかにしてくれます。また、一つ一つの花自体でも美しい上に、多くの花が集まることで更にその集団美を見せてくれます。

そんな桜を眺めていると、日本の国の花としての凛とした誇りと気高さを感じます。その集団美のごとく、人としての美しい生き方とは、一人でも生き抜くことができる自分を信じる心と、この人生を自分軸で歩いていく自立心があり、かつ、多くの人を引き付ける抱擁力があり、周りの人をたて、場を読み、すべての人を愛しみ、包み込む度量と優しさがあり、どっしりとした安心感と責任感のある生き方だと感じます。それだけでなく、咲き始めたら一気に咲き誇る桜のように、やり始めた事は貫き通し、最後は、不安や後悔もなく、立派に咲きほこり、突然の雨に降られて、風に飛ばされようと、恨むことなく、そのことを難なく受け止めて、見事に散っていく桜の潔さに私はいつも感動してしまいます。

まだ根強く9月入学説も出ては消えています、この季節を迎えるとやはり日本の入学式は4月でなければと思うのは私ばかりではないでしょう。

少し大人びた進級生、新しい園児たち、保護者の方を迎えて、そして職員と共に歩き始める新年度のスタートです。胸にいっぱい希望があふれてくるような感じがします。今、園児たち、保護者の皆様、先生という素晴らしいゆりの樹幼稚園の仲間がめぐり合ったことに心から感謝致します。

今年はこのメンバーであることの必要性がきっとあるはず。だから、この仲間であったことに感謝して、自分に謙虚に精一杯生きていきたいと思えます。

私も、十干十二支(じっかんじゅうにし)で巡る60年に一度の還暦を迎えます。

「**高き志を以て、杉のごとくまっすぐに信念を貫き、**

**美しき心を有する稚子を育む優しい人」**を

目指して生きていたいと思えます。

日本のめでたい言葉の一つに「親が死に、子が死に、孫が死に」というのがあります。これは不吉なことではなく、人は必ず生まれたら死ぬ宿命にある、ならば順番に死ぬことが一番の幸せであるという意味だそう。与えられた命を大切に生きていくことが大切なのでしょう。私も命の続く限り、幼児教育の道に精進していく決意を新たにしている4月です。

今年も年度当初にあたりゆりの樹幼稚園の教育方針について確認したいと思います。  
本園の教育の三つの柱は

**1、「教育は真の自立への援助の道」** **2、「教育は感動と思い出を作ること」**  
**3、「教育は知ることの喜びを与えること」** です。



そしてこの教育は

- 1、共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」、
- 2、響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。

私は、教育は決して「競育」や「狂育」「脅育」であってはならないと考えます。感性に裏付けられた知性こそが本当の知恵であって、ただの知識で終わってはならないのです。美しいものを美しいと思う純粋な心、あるがままの自分を認められる素直な心、自分と同じように他を認められる謙虚な心を大切に出来る人達になってほしいと願っています。

そしてこの教育を支えるのは「**ゆりの樹幼稚園の10E**」です。このことはもう十分ご存知ですね。ではこのことを踏まえたうえで、どうしたら、さらに子ども達に、私たち教師は、親はよい教育ができるのでしょうか。その一つのヒントとして・・・



## **1、ひとつの言葉を大切にしましょう。**

この世はすべて、言葉を通した意志疎通がうまくいくか、否かによってお互いの関係がうまくいくか、気まずくなるか決まってきます。たった一つの言葉が子どもの心を閉ざしたり、傷つける凶器にもなり、逆に相手の心を開かせたり、救ったりもします。言葉がどう作用するかは、相手はどう受け取るかですべて決まりますコミュニケーションの原則は相手への思いやりです。

**「ひとつの言葉でけんかして、ひとつの言葉で仲直り、ひとつの言葉におじぎして  
ひとつの言葉に泣かされる ひとつの言葉はそれぞれに 一つの心をもっている」**

## **2、言葉のご馳走をしましょう。** 何度いっても言い過ぎではありません。

感謝の言葉—ありがとう、ごくろうさま、苦労が吹き飛びます。  
相談する言葉—あなたはと思う？相談されればいやな気はしません  
期待の言葉—きっとできるよ。勇気がわいてきます。  
激励の言葉—がんばってね。やる気が出ます  
信頼の言葉—大丈夫、まかせたよ。元気と自信がわいてくる。  
承認の言葉—よくやったね。積極性が出てきます。



6つの黄金の言葉、ご飯を毎日食べるように毎日ご馳走しましょう。言葉は使っても減らない大事な宝物です。ごちそうはときに飽きます。普通のごはんのみそ汁でいいのです。奇をてらった（わざと普通と違うことをして人の注意を引こうとする）言葉は心には通じないかもしれませんね。その時、感じた「うれしい」「悲しい」そんな感情に寄り添った言葉でいいのです。相手の立場に立った「愛と思いやり」から発せられる言葉を使いましょう。

そして、私のこの言葉が「**今、出会って、別れようとするときに、その人にとって最後になってもいい、その言葉が自分の悔いにならない言葉を使いましょう。**」



私たちは「**一度生まれて一度は必ず、みんな平等に、最後の時を迎える**」のが宿命です。**今日共にいた人と、明日必ず会える保証はどこにもないのです。ならば、相手にとって心地よい言葉で別れたいものです。」**

**「今、ここを大切に、一つ一つの言葉を大切に生きていきましょう」**

### 3、自分にも、子どもにもプラスの言葉をかけましょう。

暑い、疲れた、苦しい、おもしろくない、つまらない、頭がいたい、気分が悪いという言葉をもっと自分にかけていると、本当にいやな結果がやってきます。よかった、楽しい、うれしいと思うと、結果もそうなります。顕在意識が感じたものが直ちに潜在意識に影響して生活機能も同じようになります。

### 4、人生を明るくする言葉を人に使いましょ。

言葉には人生を左右する力があります。人を傷つける言葉、勇気をくじく言葉、人を失望させる言葉は前向きな言葉に言い換えましょ。勇気を与える言葉、喜びを与える言葉に替えると、なんととも言えず人生が明るく豊かになります。それが、自分や周りを積極的集団にします。



### 5、仲間、子ども達の相手のいいところを知らせ、伝えあいましょ。

人は自分が役に立っていると自ら認識できる時、やる気をかきたてられ、素晴らしい力を発揮します。片付けが上手だね。時間が守れたね。いつも笑顔がいいね。あらゆる機会を捉えて子どもを評価していることを知らせると、それに近づいてくるように努力し成長します。これが、やる気を膨らませる小さなクスリです。おだててもいけない、偽ってもいけない。愛と思いやりを持って、正直に伝える、そして、人は期待に答えて生きていくことを忘れてはいけません。言葉と具体的な行動で信じあう心をお互いに作っていくことが大切です。

子どもの周りにいる私たち大人が生活を生き生きと生きていくことが一番大切です。子ども達がそれをモデリングしていきます。これから私達大人が子どもに受けさせたい良い教育とは、**五感をフルに使い、人間の体の部分をバランスよく使った家庭と子ども、自然環境と子ども、集団の中の子どもの遊び、体験によって、脳がしなやかにたくましく育っていく教育**です。

どんなに、高価なおもちゃを与えても、親と子ども、教師と子ども、子どもと子どもで交わされる遊びに勝るものはありません。人間の心はモノでは育たないのです。だから集団が必要なのですね。人間は人の間と書くように人と人との間でしか生きていけない社会的動物です。一生無菌の状態です。純粋培養とはいかないのです。

そして、その体験の中でこそ本当の感性が育まれるのです。私達人間は進化の中で遺伝子記憶または生命記憶というものを引き継いでいるのですが、「どこかで嗅いだにおいだな」とか、「思い出」という遺伝子記憶はその人の感性によって引き起こされるといわれています。感性が鈍ければどんなに素晴らしい遺伝子記憶を持っていたとしても宝の持ち腐れなのです。その人の潜在能力を引き出す能力を情緒というのですが、この情緒というものはただ網膜で写ったものだけではなく、心眼（マインド・オブ・アイ）で育つのです。この感性の元は乳幼児期に様々な感覚刺激でしか作られないのです。

感覚刺激の最も才たるものが模倣なのです。**「子どもは大人の言うことは聞かないけれど、することは良く真似る」**といわれます。大人がやっていることが教育そのものなのです。洋服の着方、顔の洗い方、風呂の入り方、食べ方、言葉使い、身のこなし、全てが教育なのですね。



だから「**育児は育自ない・子育ては自分育て**」といわれるのでしょうか。結論として良い教育、子育てとは難しいことではないのです。**子どもが育ってほしいように自分が行動すればいいこと**なのです。逆に、とても難しい事かもしれません。しかし、自分が出来ないことを子どもに望むことのほうが子どもにとってはもっと困ったことでしょう。だから、私達は、いつも子どもに見られているという意識を持って生き生きと生活することこそが最もよい教育なのです。結果として出来なくてもやってみようとする姿勢があればいいのではないのでしょうか。

具体的な行動としては、毎日以下のようなことを心がけましょう。

- ①右脳を活性化させるように心地よいイメージをする、朝起きたら、今日は今自分でこうありたいとする姿をありありと思い浮かべる。
- ②多方面から物事をチェックし、人の意見も大事にすると同時に、最後は自分で決めて、その責任を取るよう行動する。
- ③常にあれかこれかではなく3つ以上の選択肢をもち柔軟に考える。
- ④過去の経験は生かすと同時に、過去や未来にとらわれなくて、今ここにいて感じる事を一番大切にするように務める。
- ⑤頭で考えるより体で感じる事を大切にする。体まで落として感じる。
- ⑥足る事を知り、満足感を持つようにし、何事も感謝の心で素直に受け入れる。
- ⑦人や自分を非難し、悪い所、駄目な所に目を向けるより、プラスの伸びた所に目を向け、承認するようなプラス思考する。
- ⑧出来ないことより出来る事を出来る限りでいいから毎日小さな目標を達成していき、小さな成功体験を積み重ねる。
- ⑨嫌な体験も次のステップに必要な体験であったと感謝する自分になる。
- ⑩まずは自分から信じる事を始める。
- ⑪失敗はない。繰り返しなりたい自分に向かって持続する。
- ⑫素敵な人がいたら、大人自身もその人をモデリングする。
- ⑬いい言葉、きれいな言葉使いを心がける。
- ⑭整理整頓する。身綺麗にする。
- ⑮なぜという気持ちを持ち、小さなことにも感動する。花や風、空にも。
- ⑯柔軟体操をする。呼吸を整え、深い呼吸をする。
- ⑰今の自分のあるがままの姿を認め満足感を感じる。
- ⑱他人の評価ではなく自分で自分が認められるか、納得するかを軸に決定する。
- ⑲自分の視覚的、聴覚的、触運動感覚が心地よい場所に身をおく。
- ⑳家族、職場の人、子ども達、自然あらゆるものに愛をそそぐ。微笑を絶やさない。



などがあるのではないのでしょうか。

さあ、いよいよ新しい一年が始まります。どんな日々を過ごすかは、全て自分しだいです。子ども達、保護者の方、そして私たちにとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわせて頑張ります。子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くします。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守ってまいります。応援宜しくお願い致します。

### 全託

**すべての問題を解決する能力はすべて自分自身が持っている。  
その事を信じて、自分の持てるすべての資質を信じきって、  
すべてを自分自身にたくしてみよう。すべてはそこから始まる。**